

- 1 単元名 昔の道具 磯二っ子博物館を作ろう
— 知ろう 伝えよう 道具のよさ —

2 単元について

(1) 児童の実態から

3年生になり書写の学習が始まった。子どもたちは、毛筆の学習を毎時間楽しみにしており、筆のよさを感じている。筆が今も使われている理由は、「昔からある筆をこれからも引き継いでほしいから」「日本には素晴らしいものがあるということを知ってもらうため」と考える子どもが多い。しかし、筆のように今も使われている道具にはどんなものがあるか、答えられる子どもはほとんどいない。そこで、昔からあり今も使われている道具に目を向け、体験することで道具のよさに気づき、生活の中に取り入れさせたいという願いから本単元を設定した。

(2) 本単元で身に付けたい資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

- ・学習の進め方を理解し、昔の道具について調べる際、体験と関連付けて情報を収集、分析しながら、見通しをもって学習を行う。

【自分自身に関すること】

- ・道具のよさを発見するために、昔の道具を体験したり道具とのかかわり方や使い方を見直したりして、自分の生活の中に生かせることを考えて実践する。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

- ・友達と協力して、昔の道具について調べたり体験したりして、自分の身の回りにある道具のよさや道具を伝えていくためにできることを考える。

(3) 教材について

本校には「社会科展示資料室」という昔の人々の生活の様子や道具が展示されている教室がある。しかし、道具の名前や使い方の説明はなく、学習で十分に活用されていないのが現状である。

そこで、本単元では「磯二っ子博物館を作り、道具のよさを伝えよう」と子供たちに目標をもたせる。社会科の「かわってきた人々の暮らし」では、身のまわりにある古い道具に興味をもたせ、道具について調べたことをまとめる活動をする。その後、昔の道具のよさに気づかせるために、総合的な学習の時間で今も使われ続けている道具を使う体験活動を取り入れる。自分で試したり、道具名人の使い方とどこが違うかを比べたり、もう一度やってみたり、体験を繰り返して探究的な学習に発展させていきたいと考える。

昔の道具は、使い方を工夫することでその効果を発揮する物が多い。「どのように使うのか」「どのようなよさがあるのか」子供たちに体験を通して、道具の効果的な使い方を身につけさせたり、自分の言葉で道具の説明や使い方の手順を表現させたりしたい。それらを博物館に掲示し、体験できるコーナーを作り、社会科展示資料室をみんなで活用できる資料室にしていきたい。

3 単元の目標

(総合的な学習の時間)

- 昔の道具と現在の道具について調べたり、体験して比較したりして、道具のよさに気付く。
- 博物館に掲示する内容を友達と共同して、よさや使い方をわかりやすくまとめる。

(社会科)

- 昔の暮らしに関わる道具やそれらを使っていた頃の暮らしの様子に関心を持ち、人々の暮らしの変化が人々の願いや知恵、工夫によるものであることを理解する。

4 単元の評価規準

(総合的な学習の時間)

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会に関すること
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の進め方を理解し、見直しをもって学習を行う。 ○昔の道具について調べる際、体験を関連付けて情報を収集、分析している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具のよさを発見するために、意欲的に課題の解決に取り組んでいる。 ○昔の道具を体験し、道具とのかかわり方や使い方を見直し、実践している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達と協力して、昔の道具について調べたり、体験したりしている。 ○自分の身の回りにある道具のよさを感じ、生活に生かそうとする。

(社会科)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○昔から残る暮らしにかかわる道具やそれらを使っていたころの暮らしに関心を持つ。 ○地域の人々の暮らしの変化について意欲的に調べるとともに地域社会のよりよい発展を考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔の道具を使っていたころと今の暮らしの違いや変化、人々の暮らしの知恵を考え、適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔の道具の使い方を体験や博物館の見学を通して、昔の人々の暮らしの変化について必要な情報を集めて調べ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○昔の道具や地域の人々の暮らしの様子、変化や向上が人々の願いや知恵によるものであることを理解している。

5 指導計画 (24時間扱い：総合 16時間・社会科 8時間)

学習過程 (時数)	活動内容	指導のポイント・関連する教科等
一 (社会科で扱う) 2	<ul style="list-style-type: none"> ○房総のむらで見学した衣食住の古い道具を振り返ったり、身のまわりにある古い道具を探したりする。 ○昔の道具についてわかったことや感じたことをカードに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に家庭にある昔の道具を探したり、家の人に昔、使っていた道具について聞いたりしておく。 ・校外学習のしおりや写真を活用する。 ・学校の社会科展示資料室を活用する。

	2	○身近にある昔の道具を体験する。 ・使い方について説明を聞き、使ってみる。 ○昔の道具を使ってわかったことや感じたことを話し合い、昔の人々のくらしはどんな様子だったのか問題意識をもつ。	・実際に道具を使うことにより、ほうきやくまでの便利さや難しさ、道具の工夫などを感じ取るようにする。 ・昔と今の生活の違いに着目するようにする。
	1	○教科書の挿絵をもとに、わかったことをノートに書く。 ○昔と今のくらしの違いを話し合い、昔のくらしの様子について関心をもつ。	・ワークシートを用意し、昔と今のくらしの比較がしやすいようにする。 ・わからないことやもっと知りたいことをメモさせ、次時の調べ学習の意欲づけをする。
	2	○調べてみたい昔の道具を選択し、校外学習のしおりや資料、インターネットを使って調べる。 ○調べてわかったことを整理し、道具メモにまとめる。	・道具について調べる観点をはっきりさせた道具メモを用意し、メモの取り方を確認する。 ・一つ調べ終わった児童は、他の道具についても調べる。
	1	○道具メモをもとに、調べたことや調べてわかったことを発表し、情報交換をする。	・道具やくらしの変化に人々の知恵や工夫、願いが込められていることに着目するようにする。
二	1	○どのような博物館にしたいか話し合い、博物館の完成イメージをもつ。	・他の学校の社会科展示室や博物館の写真を用意し、どのような工夫がされているか考えられるようにする。
	4	○昔の道具を体験し、道具のよさや大変さ、工夫に気づく。 ・かつお節けずり（1 h） ・洗濯板（本時 2 / 4） ・七輪（2 h）	・体験を通して、その道具のよさや使い方に触れるようにする。 ・事前にゲストティーチャーと打ち合わせを行い、子どもたちに伝えてほしいことや道具への思いを話してもらう。
三	3	○博物館に展示する道具について、特徴や使い方を調べたり体験したりする。 (ランプ、石臼、洗濯板、火のし、かつお節けずり、羽釜、七輪)	・個人で学習がうまく進められない場合は、同じ道具の友達とグループを作って学習を進める。
	4	○今まで昔の道具について調べたり体験したりしてきたことをもとに、グループごとに博物館に展示や掲示する準備をする。 ○道具の使い方やよさ、学習を通して感じたことを本やパンフレットにまとめる。	・グループで完成のイメージ図を描かせ、完成を意識させながら展示物づくりを進める。 ・見本となる本やパンフレットを用意し、グループで学習を進める。
四	2	○学習発表会で道具について調べたことや体験したこと、道具のよさを発表する。	・調べたり体験したりしてわかったことだけでなく、自分たちの思いや願いが伝わるように発表する。

	2 ○道具を受け継いでいく人々の思いや願いを考え、まとめる。	・道具をつくっている人や使っている人の思いや願い、さらに道具を使っていく自分たちにできることを考える。
--	-----------------------------------	---

6 研究の視点

視点1：指導計画の工夫

○社会科の学習から磯二っ子博物館を作る活動へ発展する

社会科の「かわってきた人々の暮らし」という単元の「博物館で昔の暮らしを調べる」学習を、「磯二っ子博物館を作り、道具のよさを伝える」という活動に発展させていく。

「社会科展示資料室」に展示されている道具に、自分たちが見つけたよさや使い方の説明をつける。展示する道具によさや使い方をわかりやすく表現させ、体験型の「磯二っ子博物館を作ろう」という目標をもたせて学習を進める。

○目的に応じた体験活動を多く取り入れる

子供たちが、道具のよさに気付き、昔の道具に愛着が持てるようになるまで、繰り返して体験活動を取り入れる。

○目標を常に意識させ、発展させて繰り返す

「博物館にはどんなものを展示したり掲示したりしたいか」考えながら、体験活動や調べ学習を行い、道具の使い方やよさを自分の言葉で表現し、自分たちの思いや願いが伝わるような掲示物を作る。保護者や地域の方々、全校児童が活用できるような磯二っ子博物館を作る。

視点2：支援の工夫

○道具名人（ゲストティーチャー）を効果的に活用する

体験活動の後半に道具名人（ゲストティーチャー）に道具の使い方を見せていただく。子どもたちが道具や道具名人とのかかわりを通して、昔の道具のよさや使い方に気づくようにする。道具名人の使い方を見て、自分たちとの使い方の違いを発見させるようにする。子供たちが発見した使い方やコツを生かして、もう一度、道具を使わせる活動を取り入れる。そして、体験を通してわかった使い方やコツ、道具のよさを自分たちの言葉で表現させたい。道具名人には、単元や本時のねらいを事前に伝え、十分な打ち合わせを行い、授業に臨みたい。

○個へ支援を図る

一度の体験では、よさに気付かない子供もいる。そこで、全体での学習のあとに、個やグループで道具の体験ができるような場の設定をしたり、いつでも道具を体験できたりするようにしておく。道具のよさに気付くような支援をしていく。

7 本単元の学習指導要領上の位置づけと他教科との関連

- 総合的な学習の時間 第4章 指導計画の作成と内容の取り扱い「1（5）地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題について学習活動（抜粋）」に位置づく学習である。
- 社会 第3学年及び第4学年 2内容「（5）ア. 古くから残る暮らしに関わる道具、それらを使っていたころの暮らしの様子」 「（7）ア自然環境、伝統や文化などの地域の資源を保護、活用

している地域を取り上げる」に関連させることができる。

○道徳 第3学年及び第4学年 2内容「4（5）郷土の伝統と文化を大切にし、郷土を愛する心をもつ」「4（6）我が国の伝統と文化に親しみ、国を愛する心をもつとともに、外国の人々や文化に関心をもつ」に関連させることができる。

8 本時の展開（11／24）

（1）ねらい

○汚れた雑巾をきれいにする体験活動を通して、洗濯板の使い方や洗濯板を使って洗濯することのよさに気づくことができる。

（2）展開

学習活動		○教師の指導・支援 ★日本の伝統文化理解教育の視点 ■評価					
1	本時の学習を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">せんたく板でせんたくするよさを見つけよう。</div>	○本時のめあてを確認する。					
2	洗濯板の使い方と活動内容を確認する。 ・汚れた部分に石けんをつけて、両手でごしごこすって洗う ・洗濯板は溝が、下を向くようにして使う	○社会科で学習した洗濯板の「道具メモ」をもとに使い方を確認させる。 ○前時の学習の掲示物を使い、学習の進め方を理解させる。					
3	時間を決め、洗濯板で洗濯をする。 ・力を入れてこすってもきれいにならない ・たくさんこすったから、手が痛くなった ・汚れていた雑巾がきれいになった ・汚れが落ちた部分と落ちない部分がある	○協力して洗濯ができるように洗濯する場を確保し、道具を用意しておく。 ○机間指導では、子供たちの洗濯板の使い方やよさに関するつぶやきをメモし、感想を発表するときの参考にする。					
4	ワークシートに気づいたことや感じたことを記入し、発表し合う。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2" style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">洗濯板を使ってみて</td> <td colspan="2" style="text-align: center;">気づいたこと・感じたこと</td> </tr> <tr> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板でこするときれいになった ・こすったところはきれいになった ・水をあまり使わない </td> <td style="width: 50%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・使い方がよいかわからない ・力を入れてこすってもきれいにならない ・洗う物がたくさんあると時間がかかる ・洗濯板が動く </td> </tr> </table>	洗濯板を使ってみて	気づいたこと・感じたこと		<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板でこするときれいになった ・こすったところはきれいになった ・水をあまり使わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・使い方がよいかわからない ・力を入れてこすってもきれいにならない ・洗う物がたくさんあると時間がかかる ・洗濯板が動く 	○本時のめあてを再度確認し、洗濯板を使って洗濯するよさに目を向けるようにする。 ○洗濯板をどのように使って雑巾を洗ったか振り返らせる。 ○子どもたちに感想を自由に発表させ、良い点と課題点にわけて板書し、課題に目を向けるようにする。
洗濯板を使ってみて	気づいたこと・感じたこと						
	<ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板でこするときれいになった ・こすったところはきれいになった ・水をあまり使わない 	<ul style="list-style-type: none"> ・使い方がよいかわからない ・力を入れてこすってもきれいにならない ・洗う物がたくさんあると時間がかかる ・洗濯板が動く 					

5 名人の洗濯方法を見て、洗濯板の使い方を学ぶ。

- ・よごれている部分同士をこすり合わせるようにして洗っている
- ・洗濯板と布がこすれて音が聞こえる
- ・洗ったあと、向きを変えて別の汚れている部分を洗っている

<洗濯板の使い方のポイント>

- ① 石けんはたてにつける
- ② 布同士をこすり合わせる
- ③ 雑巾をまわして、汚れているところをこする

6 一人一人が洗濯板を使い、名人の洗い方を真似て雑巾を洗濯する。

- ・ゴリゴリって音がする
- ・汚れている部分があるから、向きを変えて洗おう
- ・雑巾から出る泡に汚れがついている

7 本時のまとめをする。

<洗濯板を使って洗濯することのよさ>

- ① 落ちにくい汚れが落ちる
- ② 汚れているところを見ながら洗濯できる

○洗濯名人の技を見せてもらい、自分たちとの使い方の違いや使い方のポイントに気づくようにする。

○子供たちのつぶやきを大切に、博物館の説明に使う言葉を見つけるようにする。

○名人に使い方のポイントを言ってもらおう。

○使い方のポイントを掲示したり、わからないことや疑問に思ったことは名人に質問したりするように助言をする。

○上手に洗うことのできない子供には、もう一度名人に聞いたり質問したりするように助言をする。

★洗濯板を使って洗濯をすると、なかなか落ちなかった汚れがきれいになり、汚れの落ち具合を見ながら洗濯できることに、体験を通し気づいている。

■名人の洗濯の仕方を見たり、自分でも体験したりして洗濯板の使い方やよさに気づく。

○学習を振り返り、洗濯板を使い洗濯することのよさや博物館に展示するときどんなことを伝えたいかを考えさせる。